



巻頭言 福祉の原点「困っている人に手を差し伸べること」と「感謝の気持ち」を 堅持しつつ、事業運営を図っていくことを年頭の抱負としたい	2
高齢者部門「グローバル人材サポート発表会・交流会」	3
福祉を学ぶ外国人を成光苑全体で支える	
保育部門「リーダースタッフ研修」	3
子どもたちとともに保育者も目標を持って生涯発展し続ける	
不安よ さよなら 一緒にうたおうー「BPSDケアの試み」でグランプリ	3
植田陽子生活相談員(デイ・ホーム 和夢)京都府高齢者福祉施設研究会 先輩からのメッセージ	4~5
長井虹衣菜さん(認定こども園正雀愛育園)/人羅颯大さん(高槻けやきの郷)	
地域子育て支援「あいあいパーク」に40組の親子が参加	4
介護予防講座にご家族、地域から50名参加 ライフ・ステージ 夢咲	5
食育 育てて作っていただきまーす! 認定こども園千里丘愛育園	6
いざというとき知って役立つ災害講演会 ライフ・ステージ 舞夢	7
トピックス	8



心も体もポッカポカ みかん風呂&みかん狩り



高槻けやきの郷ショーツテイは期間限定でみかん風呂を実施しました(11月16~18日)。

同施設の窓から望む敷地内の菜園では丁度みかんが鈴なり状態。せっかくなのでみかん狩りの体験も(写真)。「若い頃、(みかん狩り)しとったから得意やねん」と入浴中に自慢話も広がり、心も体もポカポカになりました。

ルールを守ろう「交通安全教室」 “うさこちゃん”と手をつなぎしっかり左右を確認

認定こども園正雀愛育園に摂津警察署員と摂津市職員が来園され、5歳児クラスの園児を対象に「交通安全教室」が開かれました(11月15日)。4月から小学校に進学する同園児たちは、児童のみで集団登校するため、交通ルールを学ぶ機会となりました。

園児たちは“制服姿のお巡りさん”の話を真剣な表情。園庭で模擬信号機や標識を使って横断歩道を正しく渡る練習も。「(信号機)本物みたい!」と盛り上がりましたがやや緊張気味。それでも“うさこちゃん”(写真)と手をつなぎしっかり左右を確認して渡ることができました。



秋祭り ヨーヨー釣りや袋釣りに大はしゃぎ

認定こども園きりん愛育園分園うさぎ園(20名定員、0~2歳児)で秋まつりを行いました(11月8日)。

前日から楽しみにしていた園児らは、当日、いつもの保育室に飾られた提灯や様々なお面に「今日はおまちゆりー(お祭り!)」とソワソワ。数名ずつに分かれて手づくりゲームコーナーへ。人気はヨーヨー釣りと袋に景品が詰まった袋釣り。ゲットした中身を見せ合うなど大はしゃぎ。後日、保護者から「いつもよりたくさんお話をしてくれました!」「景品で楽しそうに遊んでいます」と喜びの声が聞かれました。



「もう売り切れ? 残念!」 初開催イベントで焼きそばなど 模擬店が大人気

せつ桜苑のスタッフ(5名)は、摂津市立三宅柳田小学校で初開催された野外コンサート(柳田地区連合自治会主催)で焼きそば、クレープの模擬店参加をしました(9月23日)。

販売直後から予想を上回る大行列で即完売。「もう売り切れた、残念!」の声も。今回は気合いを入れ仕込みを増やしご要望にお応えしたいと思います。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2024年1月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻頭言



福祉の原点「困っている人に手を差し伸べる」と「感謝の気持ち」を
堅持しつつ、事業運営を図っていくことを年頭の抱負としたい

理事長 高岡 國士

被災された皆様にお見舞いを申し上げ
一刻も早い復興を

令和6(2024)年元日、震度7の激震、能登半島地震に見舞われました。犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げますとともに、被災されました皆様にお見舞いを申し上げます。不安な日々が続いておりますが、被災者の救済と被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く謝意を表します。社会福祉法人成光苑でも被災地の皆様にお役に立つべく支援活動を進めています。被災地域の皆様の安全確保、一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

これまでの努力が実る年に

今年の干支辰年は変革や激動の年といわれ、大きな災禍に直面して始まりましたが、一方で夢が叶いやすい年ともいわれられております。

コロナ禍後の社会経済の復調の兆しが見え始める中、国を挙げた施策展開が講じられており、昨年12月に自民党・公明党がとりまとめた「令和6年度税制改正大綱」には、公益法人等への課税に関する記述はないよう、一月中には、これをもとに政府として閣議決定される予定です。今後、少子化対策などに関する財源確保の議論の中で、公益法人等への課税議論の可能性もゼロではないと思えます。

社福法人制度改革の実践が重要

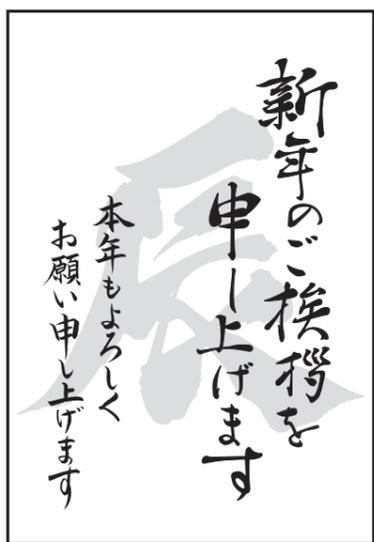
このため、成光苑としては、いわゆる社会福祉法人の本旨として社会福祉法第24条(経営の原則等)に規定されている社会福祉事業に係る福祉サービスの供給確保の中心的役割を果たすだけでなく、地域福祉の拠点として、10年後も地域の住民から一番頼りにされる社会資源になるために、既存の制度の対象とならないサービスに対応していくといった、社会福祉法人制度改革の効果を具体的に実践していくことが重要であります。

この先、社会・時代が変化しても、福祉の原点である「困っている人がいればどのような人でも手を差し伸べる」と「感謝の気持ち」を堅持しつつ、成光苑の事業運営を図っていくことを、私の年頭に当たっての抱負として、法人の全スタッフの皆さんに申し上げたいと思えます。

法人の相談機能を総動員し、多機能化への対応力を高めよう

困っている人に手を差し伸べるためには、法人(保育・高齢・障がい)としての相談機能を総動員できる体制整備が必要であり、対応能力を上げるための多機能化を図りながら、共生社会の一員として貢献していくことが重要と考えます。

過日、成光苑としてのサービス目標の「オン



本年もよろしく
お願い申し上げます

「人の役に立つ仕事(介護)、やりがいを感じ日本で働きたい」
福祉を学ぶ外国人を成光苑全体で支える

高齢者部門の「令和5年度グローバル人材サポート発表会・交流会」が岩戸ホーム地域交流スペース・すずらんホールで行われ、発表会で6名の外国人スタッフ(フィリピン、ベトナム、中国)が発表、交流会には京都・大阪エリアの各施設から27名の外国人スタッフを含む56名が参加しました(11月18日)。

高岡國士成光苑理事長はオンラインで挨拶し「成光苑のスタッフとして、地域に笑顔とまごころを届けていきたいと思います」と激励されました。発表者の一人、ホーティニユール・タオさんは「私の夢」と題し「日本で人の役に立つ仕事(介護)があると聞き、家族に相談し日本へ。実際やりがいを感じる、日本で働き続けたい」と頼もしい内容を

この発表会は「グローバル人材プロジェクト」の一環で今回が2回目。外国人スタッフが日本で福祉を学びながら交流を深め、合わせて日本語や介護知識などの習得を成光苑全体でサポートするのが目的です。交流会では外国人スタッフから伝授されたレシピと調理法で、アジア特有の甘みや辛みが味わえる特製弁当を楽しみました。

フィリピンから「特定技能(介護)」2名入社

ライフ・ステージ舞夢ではフィリピンから「特定技能(介護)」2名の方が入社されました。アズルキムベリーアンジェリオさん(7月11日入社)とガンバマリアルーデス・ヘムブラさん(11月10日入社)。お二人は「つぼみの会(在日外国人の介護の日本語学校)やJLPT(日本語能力試験)対策講座で介護の専門知識や日本語を学びながら、介護福祉士国家資格試験合格を目指されます。

高齢者部門「グローバル人材サポート発表会・交流会」



保育部門「リーダースタッフ研修」

子どもの成長とともに

保育部門では、「リーダーとしての役割」を担うスタッフとの連携や育成についてをテーマに「リーダースタッフ研修」が愛育会館ホールで行われました(12月2日)。講師は愛育会館グループの認定こども園一津屋愛育園の前田久野園長(写真中央)と東生野愛育園の平能子園長(写真右)です。

対象者は役職者を含む中堅スタッフ12名。対象者への事前アンケートに「中堅スタッフの立場は?」の問いに「やりがいがある!」という回答が第1位。前田園長は、自分の強み、存在とマネジメントについて解説、長年の保育経験から「日頃、子どもの心身の成長を実感する」と思うが、保育者も目的・目標があれば、心は生涯発展し続けると願っています。



保育者も目標を持って生涯発展し続ける――講師の前田園長

「不安よ さよなら 一緒にうたおう」

「BPSDケアの試み」でグランプリ



植田陽子生活相談員 (デイ・ホーム 和夢)

2023京都府高齢者福祉施設研究大会「未来をカタチに さらなる福祉へ」(京都府老人福祉施設協議会主催)がパルティール京都で開催され、デイ・ホーム和夢(認知症対応型通所)の植田陽子生活相談員の研究「不安な気持ちはさよなら ～一緒にうたいましょう BPSD(認知症の行動・心理症状)に対するケアの試み～」がグランプリを受賞しました(11月24日)。

同研究は認知症や認知症の方を取り巻く環境、人間関係の影響から起きる周辺症状を受け止め、レクリエーションを通じて穏やかで豊かな時間を共有する喜びや介護の仕事のやりがいなどが主な内容。植田さんは「ご利用者から学んだことを今後の仕事に生かしたい」と話されています。

京都府高齢者福祉施設研究大会

創業者が愛した花

キキョウ苗植え

地元の「花いっぱい事業」にもひと役

サンヒルズ紫豊館(福知山市)では、福知山市の市花「キキョウ」をプランターへ苗植えを行いました(10月11日)。地元で取り組まれている「キキョウの花いっぱい事業」の一環で、同施設では「植物の手入れ、成長をご入居者・ご利用者の楽しみに繋げたい」と進めています。

昨年9月上旬、地元紙の苗の無料配布情報がきっかけ。府立福知山高校三和分校の学生が育てた苗を提供され、「苗は土の中で越冬する」ことを知りました。

福知山城にゆかり(初代城主・明智光秀の家紋)のキキョウ、成光苑にとっても創業者の高岡ひさゑ氏が好まれ、本誌の誌名にもなっています。来夏にはきれいな紫色の花がいっぱい広がることを楽しみにしています。

サンヒルズ紫豊館



世代間の農作業交流

玉ねぎ苗植え

認定こども園一津屋愛育園児も応援 | かがやき農園プロジェクト

社会福祉法人成光苑が展開している「かがやき農園プロジェクト」の京都北部エリア(福知山市野笹地区)で、玉ねぎの苗植え作業が行われました(11月8日)。岩戸ホームのご入居者やご利用者が参加、さらに同法人の認定こども園一津屋愛育園(摂津市)の5歳児も送迎バスで駆けつけ、ともに農作業に汗を流す世代間交流となりました。



岩戸ホームから参加したご利用者らは10名。いずれも農作業の経験者として苗植えも慣れた手捌き。園児たちは貴重な農業体験の機会です。

ご利用者らから「周りに土をかけてね」と園児にわかりやすく教える光景が見られるなど微笑ましい世代間交流になりました。玉ねぎが元気に育つ春の収穫時期が楽しみです。

「認知症と共に暮らせる社会へ」テーマに

介護予防講座

ライフ・ステージ 夢咲



ライフ・ステージ 夢咲(地域共生型総合福祉施設)はオープンデイ企画として「介護予防講座」を開催、ご入居者・ご利用者のご家族や地域の方など約50名が参加されました(11月25日)。

公益社団法人「認知症の人と家族の会」京都府支部副代表の山添洋子氏が今後の高齢化の構図などについて「認知症は怖くない!共に暮らせる社会へ!」をテーマに講演(写真上)、「実体験に基づいた身近に感じられる内容」と強調されました。また、スタッフから電動車椅子や杖・ステッキ、おしゃれなカラーの介護シューズなど福祉機器・用具の説明があり興味津々。参観者には、グループホーム(障がい)のご入居者とスタッフが協働で作ったピザ、フランクフルトを無料提供(写真左)、大好評でした。



ご家族、地域の方ら50名参加

中学2年生2名の職場体験受け入れ

授業の一環 高槻けやきの郷デイサービスセンター

高槻けやきの郷デイサービスセンターは、近郊の高槻市立冠中学校から生徒の職場体験の受け入れ依頼があり、2年生2名を受け入れました(11月16日)。授業の一環です。

生徒には、介護現場の環境に馴染んでもらう一方、集団レクリエーション(当日はゴルフゲーム)を通じてご利用者と主体的に触れ合うことを事前に説明(写真)、ゲームの盛り上げ方やご利用者への声掛けなども指導。初めは自分から声掛けすることに緊張があったようですが、スタッフのフォローで、やがて大きな声も出て馴染んだ表情にひと安心。後日、生徒さんからの手紙で「イメージと違って明るく元気な環境」「人と平等に接していきたい」といった若い世代のポジティブな感想が寄せられました。



先輩からのメッセージ



人羅 颯大
高槻けやきの郷
2023年度入社

信頼関係を築く日々の関わりを大切に

—自分のどんな所が今の仕事に生きていますか?—
私は、人と関わるといことは様々な可能性を生み出すことだと思っています。関わることでご入居者が笑顔になることもあれば、時に逆の場合も経験があります。どんな結果からでも、関わった事実に基づいてその方を知り、自分から向き合えば相互の理解は進まないと思いません。信頼関係を構築するうえで日々の関わりをとっても大切にしていきます。

对人的仕事だからこそ感じられる喜びが、施設見学で体感してほしい

—学生の皆さんにメッセージを—
介護の仕事は「大変、しんどい」というイメージもあるかと思いますが、正直大変、しんどいではありません。自分のイメージ通りにはなかったり、ご入居者の突発的な行動に焦る時も、しかし、对人的の仕事だからこそ感じられる喜びを私は知っています。「からだ気いつけや」「ゆっくり休みなさいよ」ご入居者の何気ない言葉が私の原動力です。これは体感しないと伝わらないので一度施設見学に来てほしい、私の案内で感じてほしいと思います。ぜひお待ちしております。



長井 虹衣菜
認定こども園正雀愛育園
2023年度入社

ダンスが得意、心を一つに揃えるリズムは協調性を育みます

—自分のどんな所が今の仕事に生きていますか?—
私は体力に自信あり、体を動かすことが大好き。特にダンスが得意です。今は子どもと園庭を走り回ったり、手遊びや体全体を使うリズムはダンスの感覚にも通じ、保育に生きています。単に一緒に遊ぶだけでなく、音のアップダウンやスピードの変化に触れることで音楽を聞き分ける能力も養われ、リズムを揃えようという心一つにするので協調性も身につきます。職に就いて実感したことは、自分の中に得意なことを見つけることです。得意なことがあることで自

寄り添い支えてくれる人が必ずいる。真面目・素直に素敵な保育者になってほしい

—学生の皆さんにメッセージを—
社会人になると、全ての経験が初めての連続で結果や責任への意識も高まります。正直、しんどいこともあり、自分の目的・目標に対し心が折れそうな時もあります。そんな時寄り添い支えてくれるのは家族や友人です。うまくいかない時もあると思いますが、真面目・素直に生きていれば必ず見守ってくれています。日々、感謝を忘れず素敵な保育者になることを目指しがんばってほしいです。

信もつき視野もより広がりました。

親子参加の「堤防であそぼう会」

地域子育て支援活動

認定こども園一津屋愛育園

認定こども園一津屋愛育園は子育て支援活動の試みの一つとして、淀川河川敷公園を活用した親子参加の「堤防であそぼう会」を実施しました(11月9日)。

参加されたのは保護者4名と子ども6名。同園から一級河川淀川河川敷の小さな公園(神崎川緑地)までゆっくり歩いて15分ほどの適度な散策道。公園では歌、体操、落ち葉バッグづくり(写真)などを楽しみました。「子ども(3歳児)が長い距離を歩けるようになり成長を感じた」「他の親子と知り合い楽しかった」などの感想が寄せられました。

初めての企画ですが、引き続き地域で子育て中の方からの要望に応え内容を充実させていきたいと考えます。

40組の親子(未就学児対象)が参加

愛育園グループ3園と地区民生委員ら共催

地域子育て支援事業の「第16回あいあいパーク」が4年ぶりに大阪市立小路小学校体育館で行われ40組の親子(未就学児対象)が参加されました(11月18日)。同イベントは、くるみ愛育園、くるみ小規模保育園、東生野愛育園のグループ園と、生野区小路地区民生委員・児童委員の共催で開かれています。

会場ではコーナー遊びの大型ブロックやボールプール、制作コーナーでは「アンパンマンカスタネット」が「簡単に作れて可愛い!」と大好評、「カチカチ」と楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿が見られました。保育スタッフは「腹話術」を披露、ペンギンのペンちゃん(パペット)などが来場者と楽しいやり取りで盛り上げ。全員参加のパラバルーン(写真)では、初めて体験した方が多く「童心に返りました」と保護者にも笑顔が広がりました。あらためて地域とのつながりの大切さを実感しました。



在宅生活の継続に役立つ情報をやさしく

せつつ桜苑「つどい場桜」で下村副施設長



せつつ桜苑の「つどい場桜(摂津市委託事業)」(*)で、「やさしく解説介護保険～次はどこで生活しようか～」をテーマに下村宗治同副施設長がボランティアを含む参加者31名を対象に講演しました(10月3日)。

「家族と離れて一人暮らし、真夏に熱中症で緊急入院、今後、どのように生活するか」といった誰にでも起こり得る身近事例を交え、「緊急通報装置」や「通話録音装置」など、住み慣れた在宅生活を継続するうえで役立つ情報をアドバイス。参加者からは「子どもに迷惑かけたくない」「自宅に住み続けたいが…」などの複雑な思いや不安の声も聞かれました。今後も地域にアンテナを張り巡らし必要な情報を発信し続けたいと考えています。

(*)つどい場 摂津市では高齢者が住み慣れた地域で暮らせるよう「つどい場」づくりを行っている。地域に密着して介護予防の取り組みを行い、高齢者の心身の機能低下を防止、生きがいづくりにつなぐのが目的

室内温水プールで「おとうさんとあそぼう」



認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園は室内温水プールで「おとうさんとあそぼう」を行い、地域の2組の親子連れ(写真)が参加されました(10月28日)。同プールでの実施は昨年続き2回目。

参加されたのは初対面のお父さん同士でしたが、玩具の扱いなどを通じてすっかり意気投合、お互いに「子どもとの遊び方が参考になりました」「また参加したいですね」と言葉を交わされていました。

「子どもとの遊び方が参考です」の声も

地域子育て支援事業「あいあいパーク」

災害に関する知識を深めよう

「秋のわくわくデイ」で講演会

ライフ・ステージ 舞夢
が舞鶴市加佐公民館で開催した「秋のわくわくデイ」(オープンデイ)で、「災害に生きる〜いざというときに知って得するミニ知識、京都DWATの活動を通して〜」をテーマに講演会を行いました(11月4日)。講師は「京都府災害派遣福祉チーム(京都DWAT)」(*)の佐々木明彦氏。



佐々木氏は実際の被災地(熊本、岡山両県)での派遣活動体験をもとに、医療・保健・福祉の各チームの連携による避難者の健康管理の実施などについて解説されました。

会場では壁面にパネルを掲示、スタッフが同施設の事業内容や福祉・介護について積極的にアピール(写真)。参観者は予定の倍の60名を超え地域住民の関心の高さが伺われました。

(*)「京都府災害派遣福祉チーム(京都DWAT)」災害時の避難所で避難生活を送る要配慮者の体調や心身状況の二次被害を防ぐため、平成26年度に京都府の福祉専門職で編成されたチーム

高齢者と障がい者

夢が咲く“つながり”の交流活発化

ライフ・ステージ 夢咲

高齢者福祉サービスと障がい福祉サービスの「地域共生型総合福祉施設」として令和4(2022)年5月に開設(「ききょう」2022夏号掲載)、スタートしたライフ・ステージ 夢咲は、新型コロナの5類感染症移行(昨年5月)を機に、ようやく目指していた同施設内相互のサービス間での交流が活発になってきました。



生活介護(障がい)では、定期的にボランティアによる茶道、卓球、バレー、ミュージックケアなどを実施していますが、ご入居者(高齢)のみなさんにも同じプログラムと一緒に参加され、「昔、お茶道やっとなー」と感慨深げのご様子も。また、季節の行事では、ご利用者(障がい)が、ご入居者(高齢)のフロアを訪れ、ハンドベル演奏の披露やハロウインの仮装(写真)でお菓子を配ったりしています。つながり・夢が咲く施設を目指します。

障がいを問わず参加OK

人気の独自ブランド『PARACOCO』を販売

ココリス(障がい福祉サービス)は私立星翔高等学校(大阪府摂津市)で開かれた「ふらっとマルシェ」(主催:株式会社フォースタープラス ふらっとマルシェ実行委員会)に出店しました(10月15日)。

このマルシェ(*)は、障がいの有無に関わらず地域の方がフラットに交流できる場として企画されたイベントで、「多様性を受け入れる地域づくり」というコンセプトに賛同して参加を決めました。

会場ではココリスが開発した『PARACOCO』ブランドで、パラシュートコードを使ったペットボトルホルダー、ネックストラップなどアクセサリ類を販売。来場者や出店団体からも実用的でカラフルなデザインと大好評(写真)。商品説明なども積極的にPRし、新たに地域のみなさんに知ってもらえる機会となりました。



(*)マルシェ フランス語で「市場」を表す言葉。個人または小規模業者が人通りの多い場所に集まり出店した集合体のこと

お食事会に8名参加

豪華な懐石弁当に会話もはずみ

竜ヶ池ハウス(大阪府高齢者向け優良賃貸住宅)は、併設される吹田竜ヶ池ホームの地域交流スペースでお食事会を開き、8名の方が参加されました(10月26日)。

みなさん、寿司、刺身、天ぷらなどを豪華に盛り込んだ懐石仕出し弁当に舌鼓。「食事にカラオケも」と注文も飛び出すなど会話もはずむ賑やかな食事会となりました。



「介護の日大作戦」に模擬店出店

岩戸ホーム・サンヒルズ紫豊館

大学いも、チャイなどセット販売が好評
岩戸ホームとサンヒルズ紫豊館は、福知山駅北口公園で行われた「介護の日大作戦2023」のイベントに模擬店を出店しました(11月11日)。



スパイスカレーでお馴染みの「ONE FINE DAY」(「ききょう」2023夏号に記事)とのコラボ企画。「小林ふぁーむ」さんのシルクスイート(さつまいも)で、大学いも100食分を調理、大学いもにマッチするコーヒートチャイ(スパイス入りミルクティー)をセット販売しました(写真)。あいにくの小雨交じりの寒空にも関わらず、多くの方が足を運ばれ大好評でした。

藤原義章氏に歴代功労者表彰

なお、同日の別会場(ふくちやま交流プラザ)では、福知山民間社会福祉施設連絡協議会(会長:岩吹泰志サンヒルズ紫豊館施設長)40周年記念式典が行われ、同協議会歴代会長を長年務められた藤原義章せつつ桜苑施設長(前岩戸ホーム施設長)が歴代功労者表彰を受けられました。

懐メロに歌くちずさみ手拍子にぎやか

地元の歌謡ショー・ボランティア来演

岩戸ホーム

岩戸ホーム(福知山市)に歌謡ショー・ボランティアが来訪、すずらんホール(地域交流スペース)で歌と踊りを披露、ご入居者やご利用者は手拍子にぎやかに楽しめました(10月26日)。

来演したのは地元福知山市ボランティアセンターに登録しているボランティア団体「すずらん一座」のメンバー7名。社会福祉施設や地域公民館などの依頼に応じているグループです。

歌謡ショーではステージ衣装で美声を披露(写真)、ご入居者やご利用者は、懐メロの歌詞を口ずさまれるなど大盛況でした。

新型コロナが5類感染症移行前までは、外部ボランティアを施設に招いたり、対面開催のイベントを自粛してきましたが、施設のライフサポート委員会が中心となりようやく実現しました。



食育 みんなでいただきますーす! ~ 認定こども園千里丘愛育園 ~

園庭で育てたラディッシュを5歳児がたくさん収穫してくれましたので(写真)、保護者にも参加してもらい給食試食会で「ラディッシュの酢漬け」を一緒にいただきました(11月14日)。食育活動の一環です。

ラディッシュを食べるのは初めてという園児は、口に運ぶまで不安げでしたが、「大丈夫、全部食べたよ!」と珍しい食材に笑顔が見られ、保護者にもアピールしていました。家では野菜を食べないともらす保護者からは味付けにも関心が高まったようです。



サッカー「吹田カップ」で女子Bチーム優勝

他の仲間チームも好成績

認定こども園きりん愛育園

認定こども園きりん愛育園の5歳児は吹田市立総合運動場で行われたサッカー「吹田CUP」(主催:吹田市民間保育園サッカー連盟)に出場し、女子Bチームが優勝、同Aチームが準優勝、混合Cチームが3位という好成績でした(11月8日)。



4月から週1回、カリキュラムとしてサッカーを楽しみながら、練習を頑張ってきました。「やったー!」「シュート決めたよ!」と勝利に大歓声に包まれた園児たちの自信溢れる表情に成長を感じる瞬間でした。

みかん狩りへバス遠足

生演奏に合わせて歌い踊る 3年ぶり地域の「保育園まつり」に参加

東生野愛育園

くるみ愛育園の幼児クラス(3~5歳児45名)はバス遠足で堺市の観光農園「南楽園」へみかん狩りに行きました(11月9日)。園児たちは大型観光バスに乗り込みお見送りの乳児クラスに「行ってきまーす」、同農園では正面の池からアヒルさんが「ガーガー」とお出迎え。

なだらかな斜面に広がるみかん畑では一斉にみかん狩り(写真)。実を2~3回くると回すと簡単にもぎとれ「こんなに大ききい!」と友だち同士で比べっこ。自分で採ったみかんは格別で次々に頬張りました。

昼食はお母さん手づくりの弁当で、やっぱりお母さんの弁当が一番といった笑顔が見られました。

創作太鼓「正雀2023」を力強く

初開催の「こども文化祭」オープニング演奏

認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園の5歳児クラスは、摂津市立コミュニティプラザで開かれた「第1回せつしこども文化祭」(主催:摂津市)のオープニングで、同園スタッフが独自に手掛けた創作太鼓「正雀太鼓2023」を演奏、披露しました(11月3日)。

同こども文化祭は、摂津市芸術文化祭に、子どもたちが楽しめる催しとして新たに設けられ、同園児らの和太鼓演奏をはじめ、チアダンスなどの舞台発表や紙芝居、バルーン実演、ミニゲームコーナーなど楽しい企画が盛りだくさん。創作太鼓とあって、園児らは練習中テンポ合わせに苦勞したそうですが、本番では心を一つにして力強く演奏、来場者から拍手喝采を浴びました。

